



若い日

戴帽式を終えて

尚志館高2年

新保 愛

多くの喜びと希望を胸に、私たちは戴帽式を迎えることができました。

昨年春、期待と不安のなか入学し、はや1年半が過ぎました。看護の授業は聞き慣れない専門用語や医療の知識が必要とされ、看護の道が想像以上に厳しいことを痛感させられる毎日です。

2年生になると、戴帽試験に焦りや不安を感じる日々の連続で、押しつぶされそうな気持ちのなか、必死に勉学に励みました。だからこそ、全員が戴帽試験に合格した時は本当にうれしかったです。

戴帽式も、無事に終えることができました。終了後、家族の元へ向かうと、母が少し涙ぐみながら「おめでとう、すごくいい式だったよ」と言ってくれました。母にはこれまで何度も応援

し、支えてもらったので、自分の成長した姿を見てもらえて本当に良かったです。

戴帽式を通して多くの人々の支えがあることを実感しました。自分を支えてくれる人たちに恥じることのないよう、患者一人一人の気持ちに伝えられる看護師になれるよう、これからも努力します。(志布志市)